

2024 年度日本認知症ケア学会・認知症ケア賞 功労賞



足立 啓 (あだち けい)
国立大学法人 和歌山大学 名誉教授

【授賞理由】

足立氏は、50 年以上にわたり建築計画や環境計画の分野から認知症ケアの生活基盤整備に貢献してきました。関西大学と和歌山大学での研究と教育活動、米国ウィスコンシン大学での客員教授としての勤務を経て、認知症患者が安心して居住できるような地域福祉計画の策定や、認知症グループホーム「風の里」や特養ホーム「愛の園」などの計画設計に携わりました。日本建築学会を含む複数の学会での活動を通じて、建築・環境分野における認知症ケアの重要性を広め、多様なニーズに応える委員会の立ち上げや運営に尽力してきました。これらの活動が認知症の人の生活の質向上に寄与しており、その長年の功績により認知症ケア賞（功労賞）に相応しいといえます。

【略歴】

1978 年 3 月～1980 年 3 月	OAC(米国大林組) Los Angels 支店 技師
1980 年 4 月～1994 年 3 月	関西大学工学部建築学科助手、同専任講師
1994 年 4 月～1999 年 3 月	和歌山大学システム工学部助教授、准教授
1996 年 9 月～1997 年 8 月	米国ウィスコンシン大学 高齢環境研究所 客員教授（フルブライト上席研究員）
1999 年 4 月～2016 年 3 月	和歌山大学大学院・同システム工学部教授
2016 年 4 月～	和歌山大学名誉教授

【褒賞】

- ・豊中市都市デザイン作品賞：岡崎眼科クリニック
- ・第 57 回全国建築審査会協議会：会長表彰（国土交通省）

【業績等】

認知症ケアは、もとより医療、看護、介護などが主な分野ですが、その生活基盤となる住環境も不可欠な分野です。この信念のもと、私はこの建築計画や環境計画の工学分野から約 50 年以上にわたり研究、教育を行ってきました。

様々な認知症ケアの現場からの課題やシーズ発見などで研究が開始され多くの学びがあり、その研究結果や成果を再度ケア現場に還元するスタンスで研究を実践してきました。

その研究成果は主に日本建築学会、日本認知症ケア学会、日本老年社会科学会及び ICG（国際老年学会）、EDRA(環境デザイン研究学会)、IAPS（国際人間環境学会）などの国際学会で発表してきました。

また研究成果に基づく具体的な計画実践として、和歌山県みなべ町や上富田町で認知症の人が安心して居住できる地域福祉計画の策定等を通じた福祉のまちづくり、西宮市老人保健施設（兵庫県西宮市）、認知症グループホーム「風の里」（和歌山市）、個室ユニットケア型特養ホーム「愛の園」（上富田町）などの計画設計を通じて、研究成果の社会還元を目指しています。認知症ケアは医療、看護、介護などを主とした学際的、業際的な分野ではありますが、近年ようやく建築・環境の重要性が理解、認知されてきました。

私の専門の日本建築学会においては長年にわたり健常者を対象に建築や都市計画が形成されてきましたが、少子高齢化が社会的に認知される 2000 年前後に認知症や重度障害者など多様な主体を対象とする委員会が形成され、認知症グループホーム委員会、ノーマライゼーション委員会等の立上げに主査、委員として参画し、ハード主体の建築学会や土木学会にも多様性を重視する視点が浸透しつつあります。

日本認知症ケア学会では、2000 年の学会創設以来 2020 年の理事定年まで多くの学際的、業際的な分野の会員の皆様と活発な交流を通じて有益な刺激を受けることができました。教育研修では、米国の PEAP（認知症ケア環境評価指標）を基に日本の現場に即した

「PEAP 日本版」を環境づくりの指針とした開発に参画しました。認知症ケア現場におけるその人らしい尊厳ある居住環境の整備が、その人の BPSD の低減、QOL 向上などに寄与することがケアスタッフにも理解されてきています。

今後とも日本認知症ケア学会をはじめ様々な研修会や講演会などを通じて、「PEAP 日本版」の認知症ケア現場への普及拡大とともに、ケアの専門家が環境整備の主体的な担い手でもあることを伝え続けてゆきたいと思います。